

## 竜とニワトリ

今日から3学期が始まります。今年もどうぞよろしくお祈いします。

さて、1月は昔の言い方(古い暦)では「正月(しょうがつ)」といました。また、「睦月(むつき)」という呼び方もあります。

正月の「正」には、身を正す、心を正すという意味があり、文字通り1月は、1年の始めの月として「身を正し、心を正す月」ということになります。また、睦月の「睦」には、親しい人と仲良くするという意味があり、1月は「親しい人と仲良くし合う月」ということになります。

みなさんにも、まず1月に、身を正し、友達と仲良くして、この1年のスタートにしてもらいたいと願っています。

さて、今年辰年です。辰にちなんだ昔話をしましょう。「竜とニワトリ」という沖縄の昔話です。

むかしむかし、海と山にはさまれた小さな村がありました。この村には、貧乏だけど名医とうわさの高い、お医者さんがいました。

ある日の夕ぐれ、お医者さんのところへ金持ちの娘が一人でたずねてきました。お医者さんは、一目で娘が何かの化け物であることを見破りましたが、だまって、その痛い訴えるところをみてあげました。

「どれどれ・・・これは！」

なんと娘に変身している化け物の耳の中で、ムカデが一匹、あばれているのです。

「これは大変だ。だがその前に、あんたの正体をあらわしなさい！」

娘はコクリとうなずいたかと思うと、口から白い霧(きり)をふき出して、一匹の大青竜(だいせいりゅう)になりました。

そして目に涙をいっぱいためて、お医者さんを見つめています。

「おお、よしよし。今に楽にしてあげよう」

お医者さんはそういいながら、竜の耳の中にニワトリを入れてやりました。さあ、それから青竜の耳の中で、ムカデとニワトリの戦いがはじまりました。ムカデとニワトリは竜の耳の中で大暴れしましたが、竜はジッとガマンしました。

それからまもなく、竜の耳からニワトリがムカデをくわえて出てきました。

「よかった、よかった。これで大丈夫だ」

すっかり元気を取りもどした竜は、自分を治療してくれたお医者様に会えたことを心から感謝し、お医者さんに竜胆(りゅうたん→リンドウの根を乾燥した胃薬)をさし出しました。ニワトリには大きな頭を何度も下げて、天に昇っていったそうです。

その後、竜は天に黒雲を呼び、地に大雨をふらせ、海に竜巻を起すことがあっても、そこにニワトリの姿を見つければ、ニワトリにケガをさせてはいけないと、すぐにおとなしくなったという事です。

さて、二学期の終業式に校長先生が話したことを覚えていますか。象のマヌーラのお話から、「友だちのために何かしてあげよう」と話しました。

三学期、ぜひ取り組んで下さい。そしてそれは、今日話した沖縄の竜のように「出会えて良かった」という人間関係に広がります。

人の人生は出会いによって変わります。すばらしい友達や先生に出会えた時、自分自身が成長していきます。でも、よい出会いをするためには、まず自分自身が出会えてよかったと思われるような自分であることが大切です。まずは「笑顔であいさつ」を心がけてみるのもいいかもしれません。笑顔には人を惹きつける力があります。

今日からはじまる3学期を、今年度の締めくくりとしてふさわしい充実した学期にしましょう。

